



心のスイッチ

早いもので、令和6年度がスタートして一か月が過ぎました。それぞれの学年の生活も軌道に乗りつつあるところでしょうか。みなさん一人ひとり、新しい年度の出発にあたり、もう一度自分を見つめなおし、今年目標や課題を確認したことと思います。風薫る五月、若竹が伸びるように新しい節を作る時季です。スタートがうまく切れた人も、そうでない人も、まだ始まったばかりです。気を緩めることなく、そして焦ることなく、自分の目標に向かってそれぞれ全力で取り組んでほしいと願っています。

ここでは、私が新規採用教員の頃に目にして、今でも大切にしている「心のスイッチ」という詩をみなさんに紹介します。

心のスイッチ

東井 義雄

人間の目は不思議な目

見ようという心がなかったら

見えていても見えない

人間の耳はふしぎな耳

聞こうという心がなかったら

聞いていても聞こえない

頭もそつだ

はじめから

よい頭 わるい頭の

区別があるのではないようだ

「よしやるぞー」と

心のスイッチがはいると

頭もすばらしいはたらきをしはじめ

心のスイッチが人間を

つまらなくもするし

すばらしくもするし

電灯のスイッチが

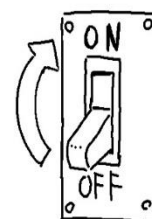
家の中を明るくし

暗くもするよじり

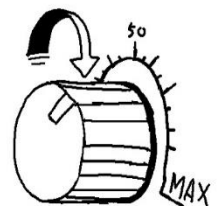
この詩は、すでに他界されていますが、兵庫県で教育者として活躍された東井義雄（とおい よしお）氏という方の著書「自分を育てるのは自分」の中に出てきます。東井氏は、この著書の中で「人間は五千通りの可能性をもって生まれてくる。その可能性の中から、どんな自分を取り出していくか、皆さん一人ひとりがその責任者なのです。世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人ひとりなのです。」と綴っています。

みなさん一人ひとりが「心のスイッチ」を入れて、自分の力を発揮し、夢や希望に向かって力強く進んでいける一年であることを願います。右のイラストのように、ゼロ(OFF)から100(ON)というイメージかもしれませんが、実際は一気にマックスというよりは、ある程度「スイッチが入る」ということなのだろうと思います。そのスイッチをある程度まで自ら入れ、自分の足で歩きだし、無理することなく、自分のペースで着実に頑張ってください。そしてその頑張りを私たち大人は支援していけたらと思います。

やる気スイッチのイメージ



実際のやる気スイッチ



生徒会新入生歓迎の会を開催しました

入学式の翌日、4/10（水）に、生徒会主催の新入生歓迎の会を開催しました。伝統の「八郎劇」、今年の八郎は3Bの齋藤 颯太さん、笑顔いっぱいの八郎を演じてくれました。そして、委員会紹介、部活動紹介と続き、温かい雰囲気の、生徒の手による「入学式」でした。

中心となった生徒会をはじめ、スタッフの皆さんは、春休み中にも登校し、一生懸命練習してくれていました。

ご苦労様でした。ありがとうございました。



前期委員会委嘱式を行いました

4月30日に行われる生徒総会に向けて、新しい組織づくりが着々と進んでいます。その一つが、22日（月）生徒会朝礼で行われた前期委員会委嘱式です。委員長になった一人一人が委員会の活動方針とスローガン、そして自身の決意表明を述べました。とても立派でした。



※ 学校HP版には「5・6月の予定（5/1現在）」を掲載していません。